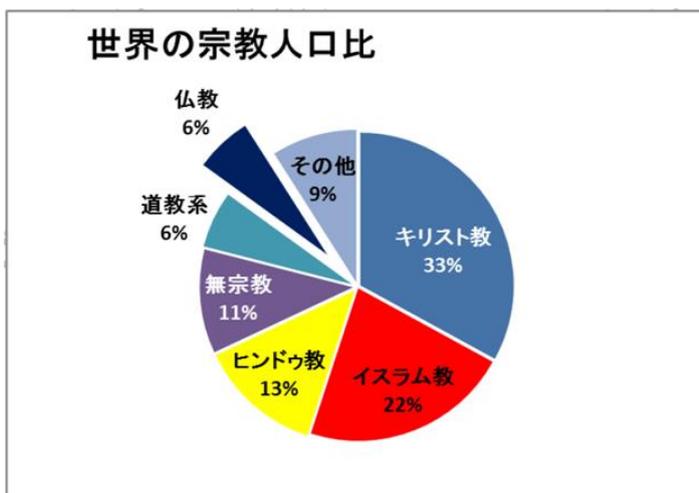


もう先月のお話になりますが、3年前に私が行った当時『究極のインドツアー』と呼ばれていた2週間ほどの研修に、普照院の大黒（住職の家内）の実兄である薬仙寺住職が参加されました。そのお釈迦様の各聖地を巡礼した満足感はやはり相当なものであったようで、今なおその余韻に浸っているそうです。

ところで仏教の発祥地であるインドという国では、現在すでに仏教の寺院はほとんど無く仏教僧侶もいません。今、インドの国民の八割以上の方が信仰するのは『ヒンドゥ教』という宗教で、世界的に見てもその宗教人口は第3位となります。またその名前は知らなくても、『カースト制度』という身分制が未だに残る宗教だと言え、ピンとくる方もおられるのではないのでしょうか。そしてそのヒンドゥ教が、私たちの信仰する仏教と兄弟のような関係だと言われると、さらに驚かれる方も多いと思います。



今から約 2500 年前にお釈迦さまがインドでご活躍されていた頃、その当時の大多数のインド人は現地の古代宗教である『バラモン教』という宗教を信仰していました。そしてそのバラモン教には、現在のヒンドゥ教と同じような身分制度がありました。その身分制が常識であった当時のインド社会の中でお釈迦さまはその制度を真っ向から否定され、お釈迦さまがお亡くなりになった後に「生きている人間に身分の優劣など無い」というその当時としては『斬新な』考えが仏教としてインド中に伝道され、数百年後にはインドでの仏教最盛期を迎えます。しかしその後のイスラムの信仰により、仏教は弾圧され最終的にはインドからほぼ消滅してしまいました。さらにそのイスラムもインド社会には定着することができず、バラモン教の教えを色濃く残しその身分制度を捨てずに生き残っていたヒンドゥ教が再興し、現在に至ります。

ですから『バラモン教から身分制度を取り去り、その他はバラモンの概念を残した仏教』と、『バラモン教の身分制度をそのまま引き継ぎはしたが、その他は時代にあった形にバラモン教を変化させて誕生したヒンドゥ教』はその身分制度に対する考えは真反対でも、バラモン教を親とする点では同じで、その宗教観も似通った兄弟宗教なのです。またその他のインドに現存する「ジャイナ教」や「シーク教」といった数々の宗教も、そのほとんどが基本的にはバラモン教と同じような宗教的世界観を持っています。

しかしなにもその身分制を肯定するバラモン教を親とするからと言って、悪い面ばかりではありません。実はそのバラモン教やヒンドゥ教、そして仏教などには誇るべき良い共通点があります。それは「他の宗教を排斥したり弾圧したりする性質があまりなく、逆に他

の教えや宗教観を融合し共存することができる」ことです。飛鳥時代に日本に伝播してきた仏教が、多少の小競り合いがあったにせよ、すんなりと日本古来の「神道」と融合（神仏習合）できたのも、バラモン教の『他を否定しない宗教的性質』があったからなのです。私がインドで見た寺院でも、一つの建物の中にヒンドゥ教やシーク教など複数の宗教が混在し、何の宗教のお寺かわからないといったこともよくありました。

さて、現在のインドは猛烈な勢いで発展しています。おそらく10数年もすれば、日本や中国を押しつけてアジアナンバーワンの経済国家になっているかもしれません。ただそのためには身分制度の撤廃という大きな壁はありますが、私たちは彼らと同じような宗教観を持った国民性であることに気づき、手を取り合っていかなければならないのだと思います。義兄がインドに行ったことで、少しかの国への懐かしい想いを思い出すことができました。

【平成28年のお寺行事（予定）】（^{うるうどし}閏年の為、ご注意ください。）

月	日	行事	内容
3月	20日	春彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	23日	春彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
4月	8日	釈迦生誕祭(花祭り)	花見堂を設置しております。随時お参り下さい。
8月	7日	盆墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	16日	盆施餓鬼 ・初盆精霊供養法要	午後2時より、本堂にて。 併せて今年の初盆精霊をお供養します。
	23日	地藏盆【地域行事】	午後6時より、本堂地藏尊前にて。
9月	22日	秋彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	25日	秋彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
12月	7日	授戒会（別時念仏会）	時宗真光寺にて。（予定）
	7日	成道会・永代塔納骨供養	舞子墓園 当寺院永代供養塔前にて。
	27日	歳末墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。

*変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

〔編集後記〕 昨年の暮れ頃に、ネット上で仏教に関する『あること』が話題になりました。それはインターネットを使って、法事や葬儀などに僧侶を呼ぶことができるというものです。従来から似たようなお商売はありましたが、今回斬新だったのはお布施を現金で僧侶に渡すのではなく、チケットを渡すというものでした。一見明瞭会計で素晴らしいアイデアのように思えますが、特にお葬式というものはお家によってそれぞれ個々様々な事情があり、そんな項目別にチケットを切れるようなものではありません。このようなサービスが生まれてきた理由に私たち僧侶側の問題もあったとは思いますが、インターネットの普及によって本当にすごい時代になったものです。 合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をにやう、若い方々・お子様たちに教えてあげて下さい。